

【静岡】

津波避難シェルター見学会 自治体などが視察

2012年11月14日

海上での漂流も想定し、全面閉鎖・防水仕様になった箱舟型の津波避難シェルターを浜松市で不動産業などを展開するマストレ(本社・西区入野町)と山口県下関市の造船会社ニシエフが共同開発し、十三日、西区で県内自治体や自治会などを対象にした説明会が行われた。大人で二十二人が収容でき、「高台まで速やかに避難するのが難しい沿岸部地域に有効」としている。

タンカーなどの大型船舶に備え付けられ、ニシエフが製造技術を持つ救命艇に着目し、津波避難シェルターに改造した。

強化プラスチック製で長さ六・五メートル、幅二・六メートル、高さ二・八メートル。船体にウレタン発泡浮力材を配した不沈構造で、波や海流にもまれて回転しても自然に浮上して元の体勢に戻る。内部に長いすと安全ベルトがあるほか、内壁に緩衝材を施してけがを抑える工夫をした。救助を要請する衛星電話も備えた。価格はおおむね五百万円前後の見込みという。

説明会には県と浜松、湖西、掛川、袋井各市の担当者らが出席。マストレなどの担当者は「自治会や事業所などで所有管理し、救命に役立ててほしい。内装などは個別の要望に応じる」と話した。

この津波避難シェルターは既に先月、浜松市西区篠原町の私立さざんか保育園が二台を購入している。

(飯田時生)



救命艇を改造した津波避難シェルター